

鹿児島島の地質26 沖永良部南部(知名町)の地質 地質担当 鈴木 敏之

沖永良部島は、鹿児島市から南西方向へ約540km、沖縄本島の北東約50kmのところにあります。周囲は約50kmあり、北東-南西方向にやや細長い三角の形をしています。最も標高の高いところは南部の大山周辺で、246mと全体的に小高い丘陵部を形成しています。

島の南部に位置する知名町は、琉球層群とよばれる琉球石灰岩でおおわれています。大山の頂上や田皆岬周辺では、島の基盤岩にあたり砂岩や頁岩などからなる根折層を観察することができます。



石灰岩の海食崖(田皆岬)

田皆岬から沖泊、内喜名の海岸には根折層や貫入岩類を不整合におおう石灰岩が急崖をなしています。

田皆岬には、きわめて緻密な石灰岩があり、「トラパーチン」とよばれています。これは有孔虫や貝殻、サンゴなどの破片の隙間に石灰質の成分がしみこんで固くなったもので、国会議事堂やデパート、ホテルなどの建物に利用されています。

下城の段丘面上には多数のドリーネが観察でき、大小さまざまな鍾乳洞も見られます。知名町にある昇竜洞の内部には、鍾乳石、石筍、フローストンなどの石灰岩特有の見事な景観が広がり、昭和42年に県の指定天然記念物になりました。山口県の秋芳洞とともに、日本有数の鍾乳洞となっています。



昇竜洞(知名町吉野平川)

鹿児島島の植物43 喜界島の植物 その1 植物担当 大屋 哲

喜界島は、鹿児島本土から約380km南にあり、隆起珊瑚礁にかこまれた島です。5月に空港近くの海岸と、百之台にあがる道路沿いの崖地で調査する機会がありました。その際見られた植物を紹介します。

ハマウツボ ハマウツボ科 花期5月頃

海岸の砂浜やその周辺に生える植物で、ヨモギの仲間に寄生して成長します。喜界島では空港近くの砂浜に見られ、リュウキュウヨモギに寄生していました。名前は、浜に生え、花の形が矢を入れるうつぼに似ていることに由来します。



ハマウツボ

ハウビカンジュ ツルシダ科

トカラ列島の悪石島が北限のシダの仲間

す。

石灰岩の崖地など明るい場所に生えます。喜界島では、百之台にあがる道路沿いの崖地に生えていました。名前は、鳳の尾に似た貫衆(シダの中国名)に由来します。

鳳は、想像上の霊鳥「鳳凰(ほうおう)」の雄のことです。



ハウビカンジュ

シマセンブリ ナデシコ科 花期5月頃

公園の芝生などに生える高さ5cmほどの小さな植物です。空港近くの芝地などに生えていました。センブリの名前は千回振っても苦いということに由来し、薬用として使われますが、この種が薬用になるのかは定かではありません。別名ハウライセンブリ。



シマセンブリ